

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600381
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 竜洋の家
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市掛塚1778番地の1 (0538) 59-2120
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月13日

【情報提供票より】(平成19年 9月 23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	13 人	常勤 12 人, 非常勤	1 人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3 階建て	1 階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(平成19年 9月 23日現在)

利用者人数	19 名	男性	4 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのりハートクリニック 高橋歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは天竜川河口、遠州大橋に近く土手に上がると遠州灘が一望できる。国際ゴルフ場が近くにあり地域住民のドライブ・散歩コースとして親しまれている位置にある。理念に掲げた”より良い信頼関係を築く”為、利用者と職員が一緒になってゆったりと暮らす場面づくりを最も大切にしている。家族からもお褒めいただいている。交代した新館長は全職員の協力を得ながら開設4年の経験を活かし、地域密着型としての役割を再認識しホームとしての計画を力強く取り組み始めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホーム竜洋の家として創り上げた理念は職員みんなで共有すると共に今後ホームの役割・理念を家族や地域住民に理解してもらえるような取り組みをお勧めしたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は新館長となって初めての取り組みとなった。ベテラン職員と共に評価し、その意義を理解している。今後、ホームとしてサービスの見直し・取り組みのチャンスにしたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	すでに第1回を開催、今後2か月に1回の開催を計画している。運営推進会議の地域会員の増加を検討され、評価の取り組み状況を報告して話し合い、その意見をホームのサービス向上に活かし地域密着型ホームとして取り組んでいただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は不満・意見・苦情が言い出しにくいものである。そのことを理解して安心して意見を表せる機会づくり・言える雰囲気づくりを皆で話し合っていたきたい。さらに家族から得られた意見をサービス反映に繋がりたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時の挨拶・祭りの交流をしている。今後も地域行事・活動は利用者と共に参加し、ホームが孤立することなく交流することに努めて頂きたい。さらにホームの特性を活かし学生の実習など地域貢献に取り組んで頂きたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えて作り上げた運営理念があるが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容がとどこまれている。	○	これまでの理念は入居者との関係を築く上で大変大切なものであるが、グループホームが地域密着型サービスとなった現在、地域との交流を推し進める理念を作り上げ、方向性を明確にすることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員で作上げたものであり、職員間で共通の理解がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りの時の交流や、近隣への散歩時の挨拶から交流が広がりつつある。	○	町内会や学校の行事への参加を行うと共に、ホーム内の行事への地域住民の招待やボランティアの受け入れ等地域との関係づくりに積極的に取り組んでいくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は管理者が中心になって作成をしているが評価内容は職員に伝達し改善につながるように検討をおこなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでにまだ1回のみ開催であり、これから2ヶ月に1回の定期開催に向け準備をしている。	○	早急に2ヶ月に1回の定期開催ができるようになることが望まれる。また地域へのホームの理解を広げていくことによって、参加者の広がりへとつながっていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の業者連絡会への参加と地域包括支援センターの地域ネットワーク会議に参加し連携を深めている。また介護相談員の受け入れも行き、運営に反映できるよう努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月次報告書を毎月作成し、生活の様子等を毎月伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対し、苦情や相談窓口を明確にして伝えている。	○	直接声に出しては言いにくいこともあるため、それらの声を拾えるようなシステムを検討し、家族等の意見をさらに生かしたホームづくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営上職員の異動はあるものの、ユニット間の異動は1名以上しないようにして、なじみの関係を継続できるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の規定によって、職員の段階に合わせた研修システムがあり、実施されている。外部研修についても内容に合わせ、参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業者連絡会や地域ネットワーク会議に参加し、そこで得た情報をホームの特性に合わせ運営に反映できるよう努めている。また同一法人で複数のホームがあるので連携、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	心のケアを第1に声かけと傾聴を重視し入居者の言動を否定することがないようにしている。プライバシーに配慮、相談記録表を使用して利用者がもっとも安心出来るようなケアを家族と相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は”より良い信頼関係を築き笑顔と優しさで接しよう”を常に考えサービスを提供している。人生の先輩として意見を聞く場面もあり、職員は教えられる事があると捉えている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の希望・意向の把握に努め、アセスメントとモニタリングを繰り返し入居者本意にサービスを提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間の申し送りノートには全員のサインが並び、また職員会議・ミーティング等で話し合い、家族とも相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを徹底しており、現状に見合った計画を作成している。個人介護記録に職員が気づいた事を記入、それを計画の見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、多機能性は特にはないが必要性に応じて支援できる体制にしている。	○	本人・家族の状況に応じて柔軟な支援、近隣の高齢者が必要に応じて利用出来るようなホームの柔軟な支援体制づくりを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームはみのりハートクリニックと契約、協力医療機関として適切な関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階ではないが話し合いはしている。チームとしての体制は今後の課題としている。	○	入居者の今後の変化にそなえて家族・職員と十分な意見交換を重ねながら全員でその方針を共有し、医療関係者と連携を図り終末時の体制づくりの検討をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーには充分配慮して対応している。個人情報保護法の理解はしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが日常生活の中で本人の気持ちを尊重し、出来る事は手を出さないで見護りを重視している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日は職員と共にメニューを考えて献立、調理・片付けなどを楽しんでいる。近隣から頂いた野菜が食卓に乗る事もある。通常、朝食は職員の手作りで支援され、昼・夜食は外注である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴は利用者のその日の希望を確認し心地よい入浴を支援している。夜間入浴体制はない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、花壇の世話・食器洗い・洗濯たたみ等一人ひとりに似合った出番、楽しみづくりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさないように利用者のその日の希望を確認しながら日常的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的には夜間の施錠である。しかし入浴時など目配りの手薄な場合は安全のため施錠するときがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消防署の指導で初期消火の研修を受けている。	○	ホームの職員は消防署の指導で初期消火訓練を受講済みである。今後、利用者を交えた定期的な訓練を実施することが望まれる。その体制づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事摂取チェックはしている。水分摂取量は利用者の体調変化時に記録されるが通常全体的なチェックはない。</p>	○	<p>栄養・水分摂取量は個別支援の基礎となる。その情報を職員が共有し、管理者は定期的な栄養士のアドバイスをもらい点検することが望まれる。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手作りの飾り物・写真などが展示、季節感も取り入れられ、くつろぎの居場所となっている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた馴染みの家具・ふとんが整えられ自分らしく安心して過ごせるように気配りされている。</p>		